

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤 教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準 数	うち理 学療法 士又は 作業療 法士 数	助 手			
作業療法 学科	人	人	人	人	人	人	6人	人	11人	6.7人	
計	人	人	人	人	人	人	6人	人	11人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2

	上記以外である。	1
--	----------	---

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

教 育 内 容		科 目		コマ数	担当教員	職名
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活社会の理解	人文科学	心理学	15	道広博之	兼任
			コミュニケーション論	15	梶原宣志	専任
		社会科学	人間関係論	8	梶原宣志	専任
			キャリア教育学	23	青山信一	専任
		自然科学	統計学	8	青山信一	専任
			物理学	8	今野哲男	兼任
			生物学	15	今野哲男	兼任
		保健体育	保健体育	15	徳光謙一	兼任
	外国語	外国語	8	青山信一/溝畑美香	専任	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学		30	笹原妃佐子	兼任
		解剖学実習		23	笹原妃佐子	兼任
		生理学		30	沖本優明	兼任
		生理学実習		23	沖本優明	兼任
		運動学		30	徳光謙一	兼任
		臨床運動学		15	徳光謙一	兼任
		人間発達学		15	藤井玲子	兼任

		基礎医学演習 I		15	青山信一	専任
		基礎医学演習 II		15	溝畑美香	専任
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床心理学			8	道広博之	兼任
	病理学概論			8	櫛谷桂/AMATYA VISHWA JEET	兼任
	整形外科学（画像診断学を含む）			15	青山 信一	専任

		神経内科学（画像診断学を含む）		15	浦川 将	兼任
		内科学 I		15	今野 哲男	兼任
		内科学 II（臨床薬理学を含む）		15	今野哲男	兼任
		精神医学 I		15	徳光謙一	兼任
		精神医学 II		15	溝畑美香	専任
		老年期学		8	大瀬戸亮平	兼任
		小児科学		15	河本敦史	専任
		一般臨床医学		8	河本敦史	専任
		救急救命医学		8	大瀬戸亮平	兼任
		健康増進論（栄養学を含む）		15	大瀬戸亮平	兼任
		臨床医学演習		30	青山信一	専任
保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	リハビリテーション医学			8	青山信一	専任
	リハビリテーション概論 （地域包括ケアシステムを 含む）			15	溝畑美香	専任
	社会保障制度論			8	福場典子	兼任
専門 分野	基礎作業療法学	基礎作業学		30	梶原 宣志	専任
		作業療法概論		8	河本敦史	専任
		作業学実習 I		23	溝畑美香	専任
		作業学実習 II		23	溝畑美香	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学		15	河本敦史	専任
作業療法評価学	作業療法評価学 I（身体障害）			30	青山信一	専任
	作業療法評価学 II（精神障害）			15	岡正敏	専任
	作業療法評価学 III（発達障害）			8	二反田はな子	兼任
	作業療法評価学演習			23	河本敦史	専任
	作業療法画像評価学			8	青山 信一	専任
	作業療法治療学	作業療法治療学 I（身体障害）		45	河本敦史	専任

		作業療法治療学Ⅱ（精神障害）	45	岡正敏	専任
		作業療法治療学Ⅲ（老年期）	15	河本敦史	専任
		作業療法治療学Ⅳ（発達障害）	15	二反田はな子	兼任
		作業療法治療学Ⅴ（義肢・装具学）	30	溝畑美香/平田慎太郎	専任/兼任
		作業療法学演習Ⅰ（身体障害）	30	鶴田怜子	兼任
		作業療法学演習Ⅱ（精神障害）	30	岡正敏	専任
		作業療法学演習Ⅲ（老年期・発達障害）	30	二反田はな子	兼任
		作業療法実習Ⅰ	23	河本敦史/青山信一	専任
		作業療法実習Ⅱ	23	岡正敏	専任
		作業療法実習Ⅲ	30	河本敦史/青山信一	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	30	大瀬戸亮平	兼任
		地域作業療法学Ⅱ	15	大瀬戸亮平	兼任
		地域作業療法実習	23	梶原宣志	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	23	河本敦史/青山信一 /溝畑美香	専任
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	68	河本敦史/青山信一 /溝畑美香	専任
		臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	180	河本敦史/青山信一 /溝畑美香	専任
		臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）	180	河本敦史/青山信一 /溝畑美香	専任
		臨床実習Ⅴ（訪問または通所リハ実習）	45	河本敦史/青山信一 /溝畑美香	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定

○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習 I（見学実習）	1年後期	コミュニケーション論	1年前期
		キャリア教育	1年通期
		人間関係論	1年後期

		作業療法実習 I	1 年前期
臨床実習 II (評価実習)	2 年後期	作業療法評価学 I、II、III	2 年通期
		作業療法学演習 I、II、III	2 年後期
		作業療法画像評価学	2 年後期
臨床実習 III・IV (総合臨床実習)	3 年前期	作業療法治療学 I、II、III、IV	2 年通期
		作業療法実習 II	2 年前期
		作業学実習 II	2 年後期
臨床実習 V (訪問または通所リハ)	3 年前期	地域作業療法学 I	2 年前期
		地域作業療法学 II	2 年前期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2

	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1
--	--------------------------------------	---

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	学校評価委員会
委員名(委員長)	理事長・学校長 平田 富美子
組織の開催頻度	原則 年2回
組織の取り組み内容	・学生アンケートに基づく学生満足度の分析
	・該当学科の自己評価結果の分析
	・必要に応じ、授業参観の検討
	・教職員研修会(研究事業含む)の開催企画
自己点検・評価結果の公表	HPで公表(URL:http://www.iwad.ac.jp)

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	シラバス検討会
	委員構成等	学科長、教務主任、学科教員等
	改善の仕組みの実際	毎年度末にシラバス作成の更改等について検討する

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

昨年度リハビリテーション評価機構の教育評価を受審し、リハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供、実施できる養成施設として認定されている。